

金属キャスクの取扱訓練を実施しました

当社は、原子力発電所で発生した使用済燃料を再処理するまでの間、金属キャスク（以下、「キャスク」という）という容器に入れて貯蔵します。使用済燃料は、原子力発電所でこのキャスクに入れられ、リサイクル燃料備蓄センターへ運ばれてきます。キャスクは、貯蔵建屋内の受入エリアで、表面の外観検査や放射線量の検査を行った後、搬送台車を用いて貯蔵エリアに運ばれます。貯蔵エリアでは、10本のボルトで床にしっかり固定し安全に貯蔵します。

当社は、2月8日～24日にかけて模擬キャスクを用いて、「キャスク受入検査」、「搬送台車の操作」、「キャスク移動」、「キャスクたて起こし・横倒し」というさまざまな作業の取扱訓練を行いました。

この訓練は、キャスクの取扱いを安全かつ確実に

行うことを目的としており、当社及び協力企業の社員、約30名が参加しました。

下記の写真は、今回の訓練のひとつとして行った「横倒し訓練」の様子です。

重量約120トンにもおよぶ模擬キャスクを天井クレーン（最大能力160トン）で吊り上げ、「たて起こし」用の架台に載せて、横倒しにして仮置きします。

天井クレーンの操縦席はクレーンに付帯しているので、地上12メートルのオペレータとフロアにいる監理員、監視員との息のあったやりとりの結果、模擬キャスクは静かに横倒しされました。
※模擬キャスク：全長・重量が実物と同じキャスクです。

金属キャスクは4つの機能で安全を確保します。

1. 閉じ込め機能

使用済燃料集合体が内包する放射性物質を適切に閉じ込める機能

2. 遮へい機能

使用済燃料の放射線を適切に遮へいする機能

3. 臨界防止機能

使用済燃料が臨界に達することを防止する機能

4. 除熱機能

使用済燃料の崩壊熱を適切に除去する機能

